

『金瓶梅詞話』の「年齢質問」発話行為と敬語表現*

——社会言語学的アプローチ——

彭 国 躍
(富 山 大 学)

キーワード: 近代中国語, 敬語表現, 社会的属性, 発話行為変項, 異形

1. 始めに

言語には, その構造に関する体系的な側面とその使用のあり方に関する運用的な側面とがある。この点は, 過去の言語についても同じことが言える。しかし, 一般的に過去の言語に関する運用的側面の研究は構造の研究に比べて遅れる傾向がある。この傾向は言語使用者に対する直接調査による第一次的な資料が得られないことと関係するかもしれない。文献資料しか残っていない過去の言語の運用的な側面をどう捉えるべきかは, 言語研究における一つの重要な課題と言えよう。

本研究は, 社会言語学的アプローチから近代(元, 明, 清時代)中国語敬語の運用的側面を考察することを目的とする。近代中国語敬語と社会とのかかわり方を具体的に観察するために, 「年齢質問」発話行為という一つの事例に焦点をしぼる。考察の対象を一つの発話事例にのみ限定するのは, 同一の命題内容に対する表現スタイルの様々なバリエーションと人間関係の社会的変数との相関性が特定できるという理由によるものである。「年齢質問」発話行為を選んだのは, それが日常の会話に頻繁に現れ, 様々なコンテキストの中で使用されていたからである。そして, 近代中国語という歴史的に存在した過去の言語に関する調査なの

* 本論文の執筆に際して, 大阪大学の真田信治教授に暖かいご指導をいただいたことに深く感謝し, 初稿に対して貴重なご助言をくださった二人の査読委員に心からお礼を申し上げます。

で、生の会話資料を得ることは不可能であるが、当時の日常生活を反映する文学作品を通して間接的にその敬語の運用のしくみを観察することは可能であろう。そのために、今回は、近代小説の中でも特に17世紀ころの市民生活を如実に反映した写実的な作品として定評のある『金瓶梅詞話』（以下『金』と略す）を選んだ。調査対象を一つの作品に限定するのは発話にかかわる人物間の関係が把握しやすく、異なる時代、地域または作者による差が回避できると考えたためである。

論文の構成としてまず『金』の中に現れた年齢に関するすべての質問発話を集め、一つの発話行為変項に対する様々な異形の表現タイプを分析し、それぞれのタイプの異形が持つ意味的特徴を記述する。そしてそれらの異形がそれぞれどのような人間関係において使用されたかを調べる。最後に人間関係と表現形態の相関性、社会的属性要素が異形の選択に与えた影響を明らかにする。

用語に関して、ここで言う「言語変項」とは、同一の概念的、命題の意味機能を持つ異なる形態を有する言語項目のことを指す。言語変項は、音韻、語彙、文法、発話行為など様々なレベルで抽出できるが、ここでは、「人の年齢をたずねる」という発話行為レベルの言語項目を扱う。同一の変項に属する異なる形態のことを「異形」と呼ぶ（Hudson 1980 和訳本：225, Wardhaugh 1992 和訳本：182-187, 真田他 1992 187-189）。そして、従来狭義的に解釈されてきた敬語表現を「敬辞」とし、その内、相手に関する表現に使われる「尊～、貴～、高～」などは「尊辞」、自分に関する表現に使われる「卑～、小～、拜～、敬～、請～」などは「謙辞」と呼ぶ¹⁾。そして、敬辞のカテゴリーには入らないが、何らかの丁寧さの効果を有する間接表現、婉曲表現などのような表現を「丁寧さの表現」と呼び、「敬辞」と「丁寧さの表現」をまとめて「敬語表現」と呼ぶこととする。

2. 用例の提示

『金』の中に現れた年齢の聞き方の発話例は全部で32例あった。これらの例を、年齢を聞かれた人の立場によって大きく二種類に分ける。一種類は、話し手

1) 近代中国語の敬辞の体系や性格については彭（1991, 1993, 1995a, 1995b）、井出、彭（1994）を参照されたい。ここでの用語は彭（1993）に比べ若干の修正が施された。

が聞き手に向かって第三者の年齢を聞く場合の発話である。これをⅠ類事例とする。もう一種類は、話し手が聞き手の年齢をたずねる場合の発話である。これをⅡ類事例とする。各例文の後の角括弧内は、Ⅰ類事例の場合では「話し手→聞き手→第三者」を、Ⅱ類事例の場合では「話し手→聞き手」をそれぞれ意味する。

Ⅰ類事例：第三者の年齢を聞く発話

①孫二娘還有位姐兒，幾歲兒了。〔月娘→春梅→孫二娘の娘〕96章

（孫さんの娘は何才。）

②這丫頭十幾歲。〔孟玉樓→老馮→召し使い〕24章

（この女の子は十何才。）

③真個多少年紀。〔西門慶→王婆→潘金蓮〕2章

（ほんとうは年いくつですか。）

④大哥今年多少青春。〔金蓮→王婆→王婆の息子〕30章

（お子さんは今年いくつですか。）

⑤書官兒青春多少。〔謝希大→西門慶→西門慶の小者〕35章

（お宅の小者は年いくつですか。）

⑥老馮多大年紀。〔吳月娘→李瓶兒→女中〕14章

（馮さんは年いくつですか。）

⑦你衙内今年多大年紀。〔孟玉樓→陶媽媽→県知事の息子〕91章

（そちらの若旦那様は今年いくつになりますか。）

⑧他大娘貴庚。〔李瓶兒→西門慶→西門慶の妻〕13章

（奥様はおいくつですか。）

⑨他五娘貴庚多少。〔李瓶兒→西門慶→西門慶の妾〕13章

（5番目の奥様はおいくつですか。）

⑩他老人家也高寿了。〔應伯爵→西門慶→楊姑娘〕7章

（あのご老人はおいくつでしたか。）

Ⅱ類事例：聞き手の年齢を聞く発話

⑪你多少年紀了。〔應伯爵→来友兒〕77章

（年いくつ。）

⑫我只要忘了，你今年多少年紀。〔西門慶→如意〕75章

(忘れたけど，今年年いくつ。)

⑬你年紀多少。〔西門慶→如意〕67章

(年いくつ。)

⑭多少青春。〔任道士→陳經濟〕93章

(おいくつですか。)

⑮多少青春。〔西門慶→李瓶兒〕13章

(おいくつですか。)

⑯你今青春多少。〔西門慶→申二姐〕61章

(今年でおいくつになりますか。)

⑰青春多少。〔應伯爵→申二姐〕61章

(年いくつですか。)

⑱官人青春多少。〔韓愛姐→陳經濟〕98章

(旦那さんはおいくつですか。)

⑲叔叔青春多少。〔潘金蓮→武松〕1章

(おいくつですか。)

⑳你今年都大年紀。〔張勝→陳經濟〕94章

(今年おいくつですか。)

㉑今年多大年紀。〔叶頭陀→陳經濟〕96章

(今年おいくつですか。)

㉒長老多大年紀。〔西門慶→老和尚〕49章

(長老は今年おいくつになりますか。)

㉓官人貴庚。〔孟玉樓→西門慶〕7章

(旦那さんはおいくつですか。)

㉔賢弟貴庚。〔守備→陳經濟〕97章

(あなたはおいくつですか。)

㉕朱審先生・・・貴庚多少。〔李瓶兒→朱竹山〕17章

(朱先生はおいくつになりますか。)

㉖二舅貴庚多少。〔應伯爵→孟銳〕67章

(あなたはおいくつですか.)

㉗ 老人家高寿了. [應伯爵→老医師] 61章

(先生のお年はおいくつでございますか.)

㉘ 請問奶奶多大年紀. [占い師→呉月娘] 46章

(奥様はおいくつでございますか.)

㉙ 敬問姐姐, 青春幾何. [陳經濟→韓愛姐] 98章

(お嬢さんはおいくつでございますか.)

㊦ 不敢請問娘子青春多少. [西門慶→孟玉樓] 7章

(失礼ですが, お嬢さんはおいくつでございますか.)

㊧ 小人不敬動問, 娘子青春多少. [西門慶→潘金蓮] 3章

(失礼ですが, 奥さんはおいくつでございますか.)

㊨ 小人不敬動問, 娘子青春幾何. [朱竹山→李瓶兒] 17章

(失礼ですが, 奥さんはおいくつでございますか.)

3. 異形の表現タイプ分析

以上上げた32の用例は, すべて人の年齢をたずねるという共通の命題内容を持つ同一の発話行為変項「年齢質問発話行為」に属する. この同一の発話行為は, 例示のように様々な異形によって遂行されている. 各々の発話の異形は, 年齢の質問にかかわる表現の部分だけを抽出すると, 表3.1のように全部で八つの表現タイプに分類することができる.

以下, それぞれのタイプの異形が持っている意味的特徴について分析する.

タイプ1は数量疑問詞「幾(いくつ)」と年齢を表す「歳」によって構成されたもっとも簡潔で, 直接的な表現である. 年齢を聞く発話の命題内容そのものの意味を表す以外は表現上丁寧さのための工夫は何ら施されていない. この意味においてこのタイプはもっとも丁寧度が低く, ぞんざいな表現と言える. 2例とも相手がその場にはいないI類事例に現れている.

タイプ2は疑問詞「多少(どのぐらい)」と年齢を意味する「年紀」との組み合わせによる表現である. 直接的な疑問表現ではあるが, タイプ1と比べて語彙選択の上で相違が見られる. 「幾歳」に比べ「多少年紀」の方がいくらか表現が

表3.1

	タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4	タイプ5	タイプ6	タイプ7	タイプ8
I	幾歳① 幾歳②	多少年紀 ③	多少青春 ④ 青春多少 ⑤	多大年紀 ⑥⑦	貴庚⑧ 貴庚多少 ⑨	高寿⑩		
II		多少年紀 ⑪⑫ 年紀多少 ⑬	多少青春 ⑭⑮ 青春多少 ⑯⑰⑱	都大年紀 ⑲ 多大年紀 ⑲⑳	貴庚㉒㉔ 貴庚多少 ㉕㉖	高寿㉗	請問～ 多大年紀㉘ 敬問～ 青春幾何㉙	不敢請問～ 青春多少㉚ 不敢動問～ 青春多少㉛ 不敢動問～ 青春幾何㉜

長くなり、ずばり何歳ではなく、年齢はどのぐらいというたずね方なので、意味はいくらか漠然性を帯び、語気が少し柔らかくなる。

タイプ3は疑問詞「多少（どのぐらい）」と年齢の婉曲表現「青春」との組み合わせであるが、タイプ2と同様「多少」を使っているため、質問に漠然性が高くなる。そして、「青春」は敬辞の枠組みには入らないが、年齢の直接表現を避けるという意味で婉曲表現に属する。「青春」の文字通りの意味から、青春時代の若者に対して使われる表現ではなかったかと推測される。

タイプ4は疑問詞「多大、都大」と「年紀」との組み合わせによる表現であるが、疑問詞「多（都）大」はタイプ2、3の疑問詞「多少」と比べ、字義的には「どのぐらい少ない（若い）」ではなく、「どのぐらい大きい（年とる）」ということ意味するので、相手の年が大きいことを暗示した質問である。年齢は社会的地位をはかるパラメーターの一つである。年齢の高い人が相対的に社会的地位も高いとされるような社会において、相手の年が大きいことを含意させてたずねることは、相手に対する一種の丁寧さの配慮になろう。

タイプ5は尊辞「貴～」と年齢を意味する語「庚」と疑問詞「多少」からできた発話である。疑問詞がない場合は省略現象として同一のタイプとみなす。このタイプの発話は、尊辞「貴～」が使われることにより、発話の丁寧度が一段と高くなる。

タイプ6は尊辞「高～」と年寄りを意味する表現「寿」からできた発話である。

タイプ4の「多大」が若くないことを含意するのに対して、「寿」は相手が高齢者であることを含意する。この発話は一一般的に年寄りが尊敬されるような長老尊重の社会においてかなり丁寧度の高い表現になることが想像される。

タイプ7は、質問行為を疑問文の形で遂行するのではなく、自分の質問行為に言及する平叙文により間接的に遂行している。タイプ1～6に比べて、相手に直接質問しないで、自分が質問する行為を述べるにとどまっているので、相手が答える義務が形の上で拘束されないことになっている。それにより押し付けがましさが弱められる。そして、質問する行為「問」の表現の前に謙辞「請（お願いして）～」、「敬（うやまって）～」を冠して表現している。字義的には「お年はおいくつをお願いして（又はうやまって）おたずねします」という自己の行為を記述する平叙文の形になっている。

タイプ8は、文字通りには「あなたの年齢を聞くことを敢えてしません」ということを意味するので、タイプ7の発話内容、つまり自分が質問するという内容に対する否定の発話である。この発話は相手の年齢を聞かないと言いながら、それを聞いているので、一見矛盾しているように見えるが、このような、表面上表現と意図が相反する発話が行われたのは、タイプ7よりもさらに、相手が答える義務を軽減させ、自由を与え、押し付けがましさを最小限にしようとしたからであろう。つまり、「あなたが自分で年齢を言うてくだされば別ですが、私は大胆にもそれをたずねるなんて失礼なことは致しません」ということである。相手の年齢を聞くという質問行為はただその話題に触れただけで相手にその意図を気づかせるので、丁寧さのための発話効力の間接性を最大限に守っている。

以上述べた、年齢質問の発話行為変項に対する八つの異形について次のように特徴付けることができる。

タイプ1：命題内容

タイプ2：命題内容＋漠然性²⁾

タイプ3：命題内容＋漠然性＋婉曲性³⁾

2) ここでの「漠然性」とは、数量に関するものに限定する。

3) ここでの「婉曲性」とは語彙レベルにおいてある語の替わりに他の語を代用する現象に限定する。

タイプ4：命題内容＋漠然性＋年長含意

タイプ5：命題内容＋漠然性＋敬辞（尊辞）

タイプ6：命題内容＋高齢含意＋敬辞（尊辞）

タイプ7：命題内容＋婉曲性＋敬辞（謙辞）＋間接発話⁴⁾

タイプ8：命題内容＋婉曲性＋敬辞（謙辞）＋間接発話＋否定

（「＋」は各意味要素の結合を表すだけで、発話における配列順位を示すものではない）。

敬語表現の丁寧さの度合いを図る尺度は「丁寧度」であるが、この丁寧度を基準として考えると、タイプ1は命題内容を表すのみで、対人的な配慮がまったく見られないので、丁寧度が最も低い表現である。タイプ2, 3, 4は発話に漠然性や婉曲性を増したり、年長含意を含ませたりして、ある程度相手を意識し、無礼にならないような最低限度の表現上の工夫が見られ、やや丁寧な発話と言えよう。タイプ2, 3, 4のような表現は従来まとまった概念で括られたことはなく、敬辞の 카테고리にも入らないものである。タイプ5には尊辞「貴～」、タイプ6には尊辞「高～」と高齢含意「寿」が使用されているので、両方とも丁寧度の高い表現と見なすことができる。タイプ7, 8は謙辞「敬～、請～、動～」の使用の外に、丁寧さのための間接性が守られているので、対人的に高い配慮が払われた発話と認められる。間接発話表現も、従来の敬辞の カテゴリに入らないものだが、近年発話行為を対象とする語用論研究において、間接性に基づく丁寧さの含意が認められるようになった。タイプ7, 8の間接発話表現は、リーチ (Leech 1983) やブラウンとレヴィンソン (Brown and Levinson 1987) によって提唱された普遍的な丁寧さ (politeness) の枠に入るものである。リーチは、気配り (Tact) の原則 (他者への負担を最小限にする) を守るために、発話が間接的であればあるほど丁寧さが増すと主張し、ブラウンとレヴィンソンは丁寧さのための発話調節の戦略として間接性 (indirect) を取り上げている。

以上八タイプの表現の意味的特徴から、低い丁寧度を保つための表現手段として「漠然性」、「婉曲性」、「年長含意」が使われていたが、高い丁寧度を示すため

4) 間接発話は一般的な意味では、婉曲表現と重なるが、ここでは、発話行為レベルでの間接性を意味する。

には、「高齢含意」の外に、敬辞コードの使用と発話行為の間接化という手段が使われていたことが分かる。

4. 発話にかかわる人間関係

以下32例の発話が具体的にそれぞれどのような人間関係において行われたかを記述する。

- ①豪族の奥さん呉月娘が、昔の召し使いでいま周守備という官吏の妾になった春梅に対して、その官吏の正妻の幼女（4才）の年齢を聞く。
- ②豪族の家の妾孟玉楼が、年配の使用人老馮に対して、新しく買おうとする若い召し使い（17才）の年齢を聞く。
- ③町の豪族の主人西門慶が知り合いの老女に対して、その隣人の妻（25才）の年齢を聞く。
- ④ある婦人が隣人の老女にその息子の年齢（17才）を聞く。
- ⑤読書人謝希大が友人で豪族の主人である西門慶に対してその召し使いの年齢（16才）を聞く。
- ⑥豪族の奥さん呉月娘が隣人の奥さんに対してその家の年上の使用人の年齢（56才）を聞く。
- ⑦豪族の未亡人孟玉楼が、役所で働く媒酌人に対して、県知事の息子の年齢（31才）を聞く。
- ⑧ある婦人李瓶児が隣人の主人西門慶にその奥さんの年齢（26才）を聞く。
- ⑨ある婦人李瓶児が隣人の主人西門慶にその妾の年齢（28才）を聞く。
- ⑩地位ある中年男性同士で、同じ町で亡くなった老女楊姑娘の年齢（75才）を聞く。
- ⑪應伯爵という身分ある人が、隣人の若者来友兒にその年齢（20才）を聞く。
- ⑫、⑬豪族の主人西門慶が女中如意に対してその年齢（31才）を聞く。
- ⑭お坊さん任道土が、知人の紹介で新しく入門しに来た若者陳經濟にその年齢（24才）を聞く。
- ⑮豪族の主人西門慶が隣人の奥さん李瓶児にその年齢（23才）を聞く。
- ⑯豪族の主人西門慶が隣人の娘申二姐に年齢（21才）をたずねる。

- ⑰應伯爵が隣人の娘申二姐に年齢（21才）をたずねる。
- ⑱と㉔は同一場面での相互質問である。韓愛姐と陳經濟は共に26才で、陳は韓の親の昔の雇い主の婿に当たる人である。
- ⑲行商人の妻潘金蓮が初めて会う義理の弟武松にその年齢を（28才）聞く。
- ㉔府役所の主事張勝が、もめごとで役所に拘留された若い道士陳經濟にその年齢（24才）を聞く。
- ㉔日雇いのコック葉頭陀が新しく来た日雇い労働者陳經濟にその年齢（24才）を聞く。
- ㉔豪族の主人西門慶がお寺の長老和尚にその年齢（75才）をたずねる。
- ㉔と㉔は同一場面、豪族の主西門慶（28才）と夫を亡くした金持ちの婦人孟玉楼（30才）との間の相互質問である。
- ㉔役人周守備が初めて会う義理の弟陳經濟に対してその年齢（24才）を聞く。
- ㉔と㉔は、患者である女性李瓶兒（24才）と医師である朱竹山（29才）との間の相互質問である。
- ㉔應伯爵が友人西門慶の義理の弟孟銳にその年齢（26才）を聞く。
- ㉔應伯爵が老医師に対してその年齢（81才）をたずねる。
- ㉔占い師が豪族の家の奥さん呉月娘（30才）にその年齢をたずねる。
- ㉔→⑱.
- ㉔→㉔.
- ㉔豪族の主人西門慶が隣人の妻潘金蓮にその年齢（25才）を聞く。
- ㉔→㉔.

以上の記述で分かるように、発話にかかわる人物は、すべて皇族や華族のような当時中国社会のトップ階級層ではなく、地方の豪族、下、中層官吏、読書人及び一般市民である。以下の分析結果も当然このような社会的階層の人々の敬語運用の一面を反映するものだとすることを念頭に入れる必要がある。

5. 異形の表現タイプと社会的属性との相関性

写実的な小説は、どの程度実在の人物や事件をモデルにしたかは作者によってまちまちだが、基本的に現実社会のある側面を投影させたものとして理解するこ

とができる。このような認識の前提に立てば、作品の会話文に使われた表現は、作者個人のことばづかいの問題だけでなく、作者の無意識に映っていることばづかいの社会的常識を反映するものだと考えられる。したがって、小説の会話文におけることばの使い方の分析を通して、当時の言語運用に関する社会的ルールの一端を垣間見ることができよう。

この節で、3節で分類した各異形の表現タイプと4節で記述した発話の人間関係との間にどのような相関性が見られるかを分析する。関与性の高い社会的変数として身分、性別、年齢の三つの要素を取り上げ、それらが同一発話行為変項の各異形の選択に対する関与の度合いと実態を調べる。

身分

まず、発話における話し手と年齢を聞かれた人（Ⅰ類事例では第三者、Ⅱ類事例では聞き手）との社会的身分関係に基づき、どのような人間関係において、どんなタイプの異形が使われたかについて調べる。

表5.1の中で、4節での記述に基づいて、官職、爵位、称号（状元、秀才）などを有する地位ある人及びその家族の人を「上」で示し、それらの地位を持たない一般市民又は使用人などのような地位の低い人々を「下」で示す。矢印の左側は話し手、矢印側は年齢を聞かれた人を示す。

この表5.1を通して各異形の表現タイプと発話参与者の社会的地位との間に

表5.1

	a 上→下	b 上→上	c 下→下	d 下→上
Ⅰ	タイプ1② タイプ2③ タイプ3⑤ タイプ4⑥ タイプ6⑩	タイプ1① タイプ4⑦ タイプ5⑧⑨	タイプ3④	
Ⅱ	タイプ2⑪⑫⑬ タイプ3⑭⑯⑰ タイプ5⑳ タイプ8㉑㉒㉓	タイプ3⑮ タイプ4㉔ タイプ5㉕㉖㉗ タイプ6㉘ タイプ7㉙	タイプ3⑱⑲ タイプ4㉚㉛ タイプ7㉜	

次のような関与性が見られる。

〈1〉他人の年齢を聞くという質問発話行為自体は、社会的身分や地位のある人から一般市民や使用人など地位の低い人へ発せられる場合が最も多かった（15例）。それに対してdのように身分の低い人から身分の高い人への発話はゼロである。このことから、年齢を聞く発話行為自体が社会的地位に影響される傾向が窺われる。低い身分の人が高い身分の人に対して年齢を聞くことは、失礼にあたるので回避されたのだらうと推測される。

〈2〉「c 下→下」の身分の低い人同士には、年齢を聞く発話が現れているが、それにはタイプ5とタイプ6、つまり敬辞「貴へ、高へ」などのような表現が使われていないことが観察される。これだけでは即断できないが、このことから身分の低い一般の人々の会話には敬辞表現があまり使われていなかった可能性が窺われる。かつて伝統的な中国社会において庶民の間では敬語が使われていなかったという指摘（藤堂1974 154-155）があったが、この事例にも同じく「礼不下庶人（礼は庶民に適用されない）」という現象の一端が窺われる。

〈3〉「b 上→上」の身分ある人々同士の発話に、尊辞が使われたタイプ5、6が最も多く現れている現象（6例）が観察される。〈2〉の裏返しになるが、身分ある人々の間に、礼儀正しさのシンボルとしての敬辞コードが多用されていた姿が見られる。

〈4〉身分の高い人から身分の低い人への発話「a 上→下」には、敬辞や丁寧さの（間接）表現が使われている。身分の高い人々同士の発話「b 上→上」と合わせて考えると、ここでの敬辞と丁寧さの表現の使用は、聞き手の身分と同時に、話し手の身分や地位も深く関係している様子が見受けられる。つまり、身分の高い話し手ほど敬辞と丁寧さの表現を使用する傾向があるので、敬辞や丁寧さの表現は敬意の表出だけでなく、自分の教養を示し、社会的ステータスを保つための手段としても使われていたことが窺われる。

〈5〉「a 上→下」の発話の中に、主人と使用人という直接の上下、主従関係での発話が含まれている。それにスポットを当ててみる。

表5.2の中で「主」は主人、雇い主の立場にある人を示し、「従」は使用人、召し使いを示す。

表5.2

	主→従
I	タイプ1② タイプ3⑤ タイプ4⑥
II	タイプ2①① タイプ2①②③

表5.2で、身分の高い人が使用人の年齢を聞く場合、タイプ1～4が使われ、八つのタイプの中で丁寧度の低い方の異形が選択されたことが分かる。つまり、社会的身分の高い人は、「a上→下」の中で一般市民に対しては、相手は地位が低いとは言え、敬辞や間接表現を使い、ことばづかいにおける丁寧度の高い配慮が見られるが、使用人のような上下関係の明確な立場の人に対しては、敬辞コードや間接発話が選択されず、丁寧度の低い表現しか使われていないことが明らかである。

性別

すべての発話をその参与者（話し手と年齢を聞かれた相手）の性別によってまとめると、次の表5.3の通りになる。表の最上欄の矢印の左側は話し手、矢印側は年齢を聞かれた相手（Iにおいては第三者、IIにおいては聞き手）の性別を

表5.3

	a 男→男	b 男→女	c 女→女	d 女→男
I	タイプ3⑤ タイプ6⑩	タイプ2③ タイプ4⑥	タイプ1①② タイプ4⑦ タイプ5⑧⑨	タイプ3④
II	タイプ2①① タイプ3④ タイプ4②①②② タイプ5②④⑥ タイプ6⑦	タイプ2①②③ タイプ3⑤⑥⑦ タイプ7⑨ タイプ8⑩⑪⑫	タイプ7⑨	タイプ3⑩⑪ タイプ5②③⑤

示す。

この表の分析を通じて、各異形の表現タイプと性別との間に次の相関性が見られる。

〈1〉他者の年齢を聞く発話行為は、男性が多く行う傾向が見られる。

〈2〉タイプ7とタイプ8の発話は、女性に対してしか使われていないという現象が観察される。例⑳は女性対女性、例㉑, ㉒, ㉓は男性対女性である。しかも、タイプ7, 8の発話は、Ⅱの場面、つまり話し手が直接聞き手に向かってその人の年齢を聞く場面にのみ現れる。これらの現象から、タイプ7, 8のような異形は、相手が女性という性別条件と面と向かってたずねるという発話場面の条件が深く関与していると言えよう。男性対女性のタイプ7の㉑とタイプ8の㉒, ㉓の発話例は、それぞれ同一場面で、同一人物の女性が男性に対してもその年齢を聞いているので、それを比較してみよう。

- └ ⑱ 官人青春多少。 (女→男)
- └ ㉑ 敬問姐姐，青春幾何。 (男→女)
- └ ㉒ 官人貴庚。 (女→男)
- └ ㉓ 不敢請問娘子青春多少。 (男→女)
- └ ㉔ 貴庚多少。 (女→男)
- └ ㉕ 小人不敢動問，娘子青春幾何。 (男→女)

この同一場面に現れた対になる発話は、三組とも女性が男性の年齢を聞く場合は、年齢の婉曲表現「青春」や敬辞「貴～」が使われているが、いずれも直接的な質問表現しか使われていない。一方、男性が女性への質問は尊辞「貴～」は使われていないが、質問はすべて間接発話行為によって遂行されるという共通点を持っている。

ここで、女性が男性に対して、尊辞「貴～」を使うことによる高い丁寧さの配慮が見られるが、男性の年齢を聞くこと自体は失礼ではないので、質問を回避する必要はなかった。一方、男性が女性に対して、身分の上下関係などからして尊辞「貴～」の使用は必要とされないが、女性の年齢を聞く行為自体が失礼にあたるので、その無礼さを解消させるために、発話の間接性を増すという戦略が取られたことが窺われる。

表5.4

	タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4	タイプ5	タイプ6	タイプ7	タイプ8
I	①4 ②17	③25	④17 ⑤16	⑥56 ⑦31	⑧26 ⑨28	⑩75		
II		⑪20 ⑫31 ⑬31	⑭24 ⑮23 ⑯21 ⑰21 ⑱26 ⑲28	⑳24 ㉑24 ㉒75	㉓28 ㉔24 ㉕29 ㉖26	㉗81	㉘30 ㉙26	㉚30 ㉛25 ㉜24
平均年齢	10.5	26.8	22	42	26.8	78	28	26.3

年齢

最後に、どのような年齢層の人に対して、どんなタイプの異形が使われたかを調べてみる。まず表5.4を見てみる。表の中で丸付きの数字は例文の番号で、その右側の数字は聞かれた相手の年齢である（Iでは第三者の年齢、IIでは聞き手の年齢を示す）。一番下の欄は各タイプの異形が使われた発話相手の平均年齢である。

話し手は相手が第三者にしても、聞き手にしても、その人の年齢が分からないから聞かわけで、その質問文の表現スタイルが、相手の年齢情報に影響されるという考えは一見矛盾しているように見える。しかし、以下の二つの理由で、このような調査は意味があることが分かる。

〈1〉IIの対面行動においては、相手の正確な年齢が分からなくても、その外見から子供、青少年、中年、老年など、相手は大体どの年齢層に属するかは見当が付くはずである。もし年齢差がことばの使い方に影響を与えたとしたら、それは実際の正確な年齢よりも、むしろこのような発話者が受けた印象に基づく推定年齢層の枠であると思われる。このことはいまのわれわれの言語生活を鑑みても分かることである。年配の人に話す時と若い人や子供に話す時とのことばの違いは、決して相手の正確な年齢まで分からないと使い分けられないわけではない。大抵の場合は、相手を見た時の印象による推定年齢層と、どのぐらいの年齢層の人に対してどんなことばを使うかという社会的常識に基づくものである。しかし、何百年もの前の発話の話者の判断（正確にはその時の社会的常識に基づく作者の判断）は、いまのわれわれには直接捉えることはできない。しかし、われわれは年

年齢を聞かれた人の回答から逆に、話し手は大体どの年齢層の人に対してどのようなスタイルの異形を選択した（正確には作者が選択させた）かを推定することができる。

〈2〉Ⅰの場合は、第三者の年齢を聞く発話で、話し手は発話をする時点では、相手が見えないので、その年齢層を目で確認することはできない。しかし、ここでの例を見る限り、例①～⑩はすべて同じ町に住んでいる隣人同士の発話である。その発話は、唐突にまったく他の情報が与えられていない第三者の年齢を聞くわけではなく、相手の年齢層はすでに知っているかまたはそれが推定できるような情報がある程度持った上でその人の正確な年齢をたずねた場合の発話である。例えば、⑩では発話は近所の老女「楊姑娘」が亡くなったうわさを聞いて、話し手が聞き手にその人の年齢をたずねたものである。この場合、その亡くなった人の年齢層が分かった上での質問だからこそ、相手の年齢にふさわしい表現「高寿」が選択されたのである。この意味で、Ⅰの場合もⅡと同様、答えとして現れた正確な年齢から発話における相手の年齢層と表現スタイルとの間の関連性を推定することができる。

各タイプの発話の相手年齢構成の分析を通じて、次のような相関関係が現れている。

〈1〉3節の表現タイプ分析で推定された通り、年齢の婉曲表現「青春」が使われたタイプ3, 7, 8は20代を中心とする若い人に対して使われたことが分かる。

〈2〉タイプ1（4才と17才）とタイプ6（75才, 81才）は両極の年齢層に使われたもので、両方の年齢差が最も顕著に現れている。タイプ1は子供や未成年の人に対して使われ、タイプ6は高齢者に対して使われていた。

〈3〉表現の意味分析では、タイプ3は「青春」という婉曲表現を使っているので、タイプ2より丁寧だと判断されたが、発話相手の年齢を見ると、むしろタイプ3の対象はタイプ2より若いことが分かる。ここで、ただちに年齢のパラメーターに基づき、年齢層の高い人に使われたタイプ2の方がタイプ3より丁寧だと即断することはできない。社会的身分関係の分析を見ると、タイプ2の⑪, ⑫, ⑬は主人が使用人に対する質問であるのに対して、タイプ3はこのような明白な

上下関係ではない。タイプ3が使われた文脈では、相手は特に高い地位の持ち主ではないが、隣人などの一般的な関係である。つまりここで年齢の高い使用人に対してより、年齢の低い一般市民に対してやや丁寧な表現が使用され、年齢変数と身分変数が競合する場合、身分の要素が優先する傾向が窺われる。

〈4〉タイプ4の相手年齢は平均では42才だが、その内訳は24, 24, 31, 56, 75才になっている。質問の「漠然性」と「年長含意」を特徴とするタイプ4「多大年紀」は、幅広い年齢層の相手に対して使われていたことが分かる。

〈5〉タイプ2, 3, 5, 7, 8の相手平均年齢はそれぞれ26.8, 22, 26.8, 28, 26.3才である。いずれも20代を対象とするので、それらの表現の選択には年齢層の要因が関与していないことが窺われる。丁寧度の低いタイプ2, 3に対して、タイプ5は尊辞、タイプ7, 8は間接発話という高い丁寧さの配慮が払われたにもかかわらず、それぞれの間に年齢差による影響が認められないのはなぜだろう。社会的身分と男女差の分析にその答えがすでに現れている。つまり、タイプ5は社会的地位による身分の差に影響され、社会的地位の高い相手は年齢が低くてもそれに対して尊辞「貴～」が使われていた。タイプ7, 8は、性別の差に影響され、女性に対して年齢を聞くことは失礼になるので、年齢要素より性別の要素が優先し、丁寧な間接表現が使われたのである。

6. まとめ

以上考察したことを次のようにまとめることができる。

『金』に現れた年齢質問の発話行為変項が持つ八つの表現異形は、それぞれ話し手と相手（聞き手、第三者）との身分、性別、年齢などの社会的属性の要因によって使い分けられ、特に丁寧度の高いタイプの異形の中で、尊辞「貴～」が使われたタイプ5は主に話し手と相手との身分的上下関係によって影響され、尊辞「高～」が使われたタイプ6は相手の年齢要素によって影響され、そして間接発話表現が使われたタイプ7とタイプ8は相手の性別と聞き手であるという発話場面条件によって影響されたことが明らかになった。

この研究を通して、近代中国語において、年齢質問の発話行為変項に八つの異形が存在し、各異形に「漠然性」、「婉曲性」、「年長含意」、「高齢含意」、「敬辞」、

「間接発話」、「否定」などの要素によって社会的意味が加味されたことが実証され、これまで自由変異と考えられていた現象の中に、運用的な規則が存在していたことが明らかになり、発話参加者の社会的変数によって同一発話行為変項に対する異形の選択と切り替えが頻繁に行われていた実態が浮かび上がったと言える。

最後に因に、この八つの表現タイプの内、現代中国語においてなお使用されているのは、タイプ1, 2, 4, 6である。丁寧度の高い表現の中で高齢者に対する敬語表現「高寿」だけが存続し、タイプ5, 7, 8のような表現はほとんど使われなくなった。この現象は、同一変項の中に変化に敏感な異形と安定度の高い異形が存在し、言語変化は、時代の異なる二つの均質の変項が単純に交替するのではなく、同一変項の中の変化に敏感な異形から部分的に徐々に始まるのだということを示唆してくれたのではないか。中国語敬語表現の通時的な考察についてはいずれ稿を改めたいと思う。

用 例 出 典

『金』：『金瓶梅詞話』 蘭陵笑笑生 万歴丁巳版 17世紀(明) 星海文化 1987

参 考 文 献

Brown, Penelope and Levinson, Stephen C (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage* Cambridge University Press.

Hudson, R. A. 1980 *Sociolinguistics* Cambridge University Press, London.

(松山幹秀, 生田少子訳 1988『社会言語学』未来社)

井出祥子, 彭 国躍 1994 「敬語表現のタイポロジー」『月刊言語』大修館書店 23-9: 43-50

Leech, Geoffrey. N 1983 *Principles of Pragmatics* Longman Group Limited, London. (池上嘉彦, 河上誓作訳 1987『語用論』紀伊國屋書店)

彭 国躍 1991 「明代中国語の敬語とその語用論的方略——『金瓶梅詞話』の会話文分析」『中文研究集刊③』白帝社 29-52

_____ 1993 「近代中国語の敬語の語用論的考察」『言語研究』(第103号) 日本言語学会 117-183

_____ 1995a 『近代中国語敬語体系の研究——日本語、英語との対照を視野に入れて——』博士(文学)学位論文(大阪大学)

_____ 1995b 「近代中国語敬語体系の理論的枠組み——陰陽世界観に基づく対人関係の認知システム——」『富山大学人文学部紀要』(第23号) 富山大学人文学部 133-166.

真田信治, 渋谷勝己, 陣内正敬, 杉戸清樹 1992 『社会言語学』桜楓社

真田信治 1994 「古典の敬語のしくみ——社会言語学的アプローチ」『国文学』学燈社 39-10: 26-31

藤堂明保 1974 「中国語の敬語」『敬語講座第8巻 世界の敬語』明治書院 139-162

津田 葵, 永田高志, 長尾敦子, 日比谷潤子 1985 「社会言語学」『海外言語

学情報』大修館書店 81-98.

Wardhaugh, Ronald 1992 *An Introduction to Sociolinguistics* Basil Blackwell:

Oxford (田部 滋, 本名信行監訳 1994『社会言語学入門』リーベル出版)

**The Polite Expressions and the Speech Act of
Asking About Age in "Golden Lotus"
—From the Approach of Sociolinguistics**

PENG, Guoyue
(Toyama University)

"Golden Lotus" is one of the most remarkable Chinese novels that depicts the daily life of common Chinese citizens in the seventeenth century. This paper intends to demonstrate the relationship between the application of polite expressions in modern Chinese and other social factors such as social status, sex and age through the analysis of various different expressions of asking about the age in the novel.

First, all the thirty two cases of the speech act of asking about the age in the novel are enumerated and are categorized into eight types: 1. propositional content (ji sui). 2. propositional content + fuzziness (duo da nian ji). 3. propositional content + fuzziness + metaphor (dou shao qing chun). 4. propositional content + elderliness (duo da nian ji). 5. propositional content + polite word (gui geng). 6. propositional content + polite word + senility (gao shou). 7. propositional content + metaphor + indirect speech act (qing wen . . . duo da nian ji). 8. propositional content + metaphor + indirect speech act + negation (bu gan qing wen . . . qing chun duo shao).

Then, every speech act is analysed with regard to the social context, i.e. the social relationship between the speakers and hearers, and the people mentioned in the conversation in terms of their social status, sex and age. The result of this analysis indicates that eight types of expressions evidently correlate with some of these social factors. Types 5-8

which imply a high degree of respect possess these notable features as follows:

1. Type 5 which contains “gui-” is mainly used to inquire about the age of those whose social status are higher than speaker's.
2. Type 6 which contains “gao-” is used to inquire about the age of old people.
3. Type 7 and 8 which employ the indirect speech act are used to inquire about the age of women.

(受理日 1995年3月31日)